

(報告書様式 C)

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

| | |
|-------|-------|
| 都道府県名 | 愛 知 県 |
|-------|-------|

学校の概要 (平成 1 5 年 4 月現在)

| 学校名 | 新 城 市 立 千 郷 小 学 校 | | | | | | | | |
|-----|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-----|
| 学 年 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 3 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 1 | 2 3 | 3 1 |
| 児童数 | 1 1 6 | 1 2 4 | 1 3 0 | 1 4 1 | 1 0 5 | 1 2 2 | 2 | 7 4 0 | |

研究の概要

1 . 研究主題

| |
|---|
| 学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を旨とする算数指導 - 個に応じた指導計画の工夫 - |
|---|

2 . 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| 全学年算数 (学級の人数が多く、児童の理解度に差が出やすい教科であるため) |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|-----------|--|
| 平成 14 年 度 | <p>テーマ 学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を旨とする算数指導 - T T , 習熟度別学習への取り組み -</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none">算数科の授業を T T や習熟度別で行い、児童の学習の実態に応じた指導や適切な課題を与えたりすることで、児童は成就感・満足感を味わい、学ぶ意欲が高まるであろう。児童の学習状況を多様な方法で把握・評価をし、それを指導に生かすことで、児童の学ぶ意欲は高まり、学力の確かな定着が期待できるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">1・2年生...一斉指導の中で個に応じた指導を進めるとともに、音楽担当教員が音楽の授業のない週 (年間 1 0 週程度) に T T 指導に当たる。3・4年生... T T での指導分担および連携方法、個々の児童の理解度や学習ペースに応じた指導のあり方について研究する。年間を通してすべての時間を T T で行う。5・6年生...基礎学力の充実と発展的な学習を進めるための習熟度別学習のあり方 (コース分け、学習課題) について研究する。年間を通して、5年生は 3 学級を 3 コース・5 クラスに、6年生は 4 学級を 3 コース・5 クラスに分けて指導する。担当教師は原則として单元ごとに交代する。教育関係諸機関、保護者への授業公開を積極的に行い、指導方法の見直しを図る。児童・保護者への定期的なアンケート実施により、算数学習への意識の |
|-----------|--|

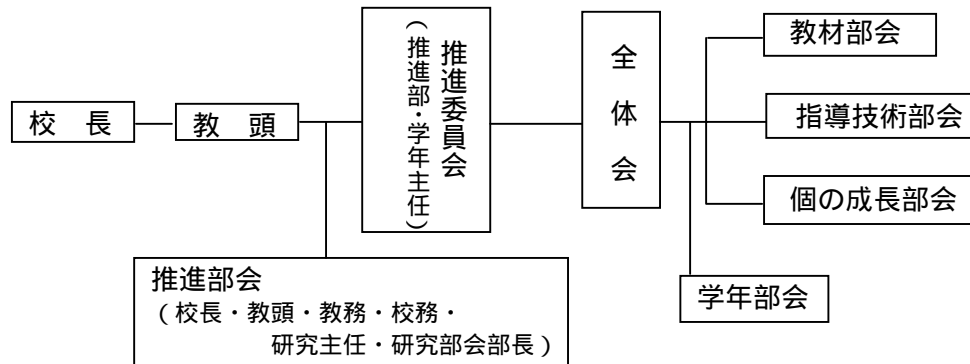
| | |
|--|--|
| | <p>変化，少人数指導への意見などを把握するとともに，研究の評価資料とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数指導の基本的なことから（教科書の扱い，ノートの使い方，机間指導の仕方など）についての共通理解を図る。 ・ 計算力の向上と学習習慣の形成のために，全校で朝学習を実施する。 |
|--|--|

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 学ぶ意欲を高め，確かな学力の定着を旨とする算数指導 - 個に応じた指導方法の工夫 -</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T T や習熟度別学習において，児童の学習実態に応じた指導計画・指導方法を工夫し，一斉または個別に働きかけることで，児童の学ぶ意欲はより高まるであろう。 ・ 児童の学習状況を細かく分析し，補充または発展的な教材を単元の指導計画に位置付けて計画的な指導を進めていくことで，学力の確かな定着が期待できるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～3年生はT Tによる指導を行う。1・2年生は週2～3時間，3年生はすべての時間をT Tで行う。 ・ 4～6年生は習熟度別学習を行う。より少人数にし，指導の効果を上げるために，5年生は3クラスを3コース・4クラスに，4・6年生は学年を2クラスごとに分け，それを3コース・3クラスに分けて指導する。これにより，開発した教材の適否が検証しやすくなる。 ・ クラスおよび担当者は2～3単元程度固定し，児童の変容を追う。 ・ 教師の授業力向上のための研修を進める。 ・ 授業研究を進め，発展・補充教材により児童の学ぶ意欲や理解度がどのように変容していったのか，抽出児の学習状況をもとに検証する。 ・ 教育関係諸機関，地域内の学校，保護者への授業公開を積極的に行い，指導方法の見直しを図る。 ・ 児童・保護者への定期的なアンケートの実施，標準学力検査の結果をもとに，少人数指導の効果を多面的に分析・検証する。 ・ 全校朝学習の内容の見直しを進めるとともに，算数学習との関連について整理する。 <p>* T T・習熟度別学習とともに，教材研究の充実，指導計画・指導方法のいっそうの工夫が必要ととらえ，それが授業力の向上につながることからサブテーマを修正した。</p> |
|--------|---|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ 学ぶ意欲を高め，確かな学力の定着を旨とする算数指導 - 子どもを伸ばす評価の工夫 -</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T T や習熟度別学習で，児童の学習状況に応じて指導計画・指導方法を工夫するとともに，指導過程において多様な方法で評価をし，それを指導に生かすことで，児童の学ぶ意欲は高まり，学力の確かな定着が期待できるであろう。 |
|--------|--|

| | |
|--------|---|
| 平成16年度 | <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年生はT Tによる指導を週3時間程度行う。 ・ 3年生にも習熟度別学習を導入する。 ・ 6年生は3クラスを3コース・5クラスに，他の学年は4クラスを2クラスごと，3コース・3クラスに分けて指導する。 ・ 発展・補充的指導をいっそう充実させ，児童の学習意欲や理解度について多様な方法で評価をする。 ・ 研究授業や指導方法の研究をさらに進め，授業力をさらに向上させる。 ・ 評価規準の見直しをするとともに，評価方法・評価場面をより具体的なものにし，その効果的な活用を目指す。 ・ 評価結果が以後の指導にどう生かされ，児童の学習意欲が高められたかを抽出児の変容を通して検証する。 ・ 教育関係諸機関，地域内の学校，保護者への授業公開を積極的に行い，研究の見直しを図る。 ・ 児童・保護者への定期的なアンケートの実施，標準学力検査の結果をもとに，少人数指導の成果を多面的に分析・検証する。 |
|--------|---|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

| |
|--|
| <p>標準学力検査での得点率の上昇（15年2月実施） 同学年で前年度得点率と比較したところ，全学年で「表現・処理」が上昇した。授業でのていねいな指導，理解の遅い児童への補充学習などによる成果である。</p> <p>T Tでの多様な指導形態の実践 固定的な指導形態ではなく，場面によって教師の役割を変えたり，机間指導で児童の理解度や学習状況についての情報交換を行い，後の指導に生かしたりするなど，様々な工夫が見られた。</p> <p>習熟度別学習におけるコースの特色の明確化 コースのねらいを明確にしたことで，問題量の違いだけでなく，わかる授業，学習意欲を高める授業に向けて指導方法にも工夫が見られるようになった。</p> <p>「ていねいな学習」習慣の確立 「見やすく学習の跡がわかるノート作り」を全学年で進めた結果，児童が授業に集中して取り組むようになった。</p> <p>教師の指導技術向上への努力 「児童の側からの教材研究」を進め，無駄のない発問に心がけることにより，授業が締まってきた。</p> <p>児童の自己評価による実態の把握 単元ごとに「ふりかえり」を書かせたことで，児童への理解が深まった。</p> |
|--|

2. 今後の課題

| |
|--|
| <p>発展的な教材の作成と扱い 単元の学習内容との関連，以後の単元との関わりなどを明らかにし，無理のない扱いをする。他社教科書や問題集などを参考に，学習意欲をいっそう高める教材の収集を進める。</p> <p>学習内容の交流 習熟度別学習において，他のコースの学習内容を知らせ，発展的教材・プリントなどを自由に使えるようにすることで全体のレベルアップを図る。</p> <p>指導方法のいっそうの工夫 教材研究をさらに深め，児童を集中させ，確実に理解させる指導方法を身につける。また，教師の指導技術をさらに磨く。</p> <p>無理なく継続できる評価方法の確立 単元途中での評価をどのような方法で行うか。それをどう指導に生かすか。 算数指導の研究成果を他教科にも広げる 学習の跡がわかる見やすいノート作り，無駄のない発問など，他教科での指導に生かすようにする。</p> |
|--|

学力等把握のための学校としての取組

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 標準学力検査の実施（年1回，2月実施） 児童へのアンケート実施（各学期末） 算数授業への意欲・理解度，意識の変化などについて調査 |
|---|

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

| | |
|-----------|--|
| ・研究成果報告 | 平成15年4月25日(金) 地方教務・校務主任者会にて教務主任が報告 |
| ・授業公開 | 平成15年11月14日(金)開催 対象...管内小・中学校，管外（北設楽郡，一宮町）教員 研究協議会実施，小冊子発行 |
| ・地区推進協議会 | 平成16年1月20日(火) フロンティアティーチャーが報告 対象...教務主任・校務主任，校長・教頭（希望者） |
| ・他校現職研修参加 | 平成16年2月9日(月) 新城市立東郷東小学校 フロンティアティーチャーが講師として参加 |
| ・HP作成 | |

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

| | | | |
|----------------------|----------------------------|---|---------------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | レ | 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | 6学級以下 13～18学級 25学級以上 | | 7～12学級 レ 19～24学級 |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導 一部教科担任制 | レ | T・Tによる指導 その他 |
| 【研究教科】 | 国語 生活 体育 | | 社会 音楽 その他 |
| | | レ | 算数 図画工作 |
| | | | 理科 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | レ | 有 無 |